

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291400063		
法人名	㈲在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい佐野		
所在地	静岡県裾野市佐野49-4		
自己評価作成日	平成31年2月22日	評価結果市町村受理日	平成31年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2291400063-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2291400063-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成31年3月11日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が行える事は可能な限りご自身でやっていただき、その方の持っている機能・能力を維持していくことができるよう意識してご支援している。職員だけがやるのではなくなるべくご利用者様にも日常の家事をお手伝いいただくよう言葉かけを行っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設1年の事業所である。併設の小規模多機能ホームと市内の同法人事業所と合同で運営推進会議も開催しており、比較対象があることでより良いサービスに向けた意識に繋がっている。今後は、事業所同士が協力して行事や職員研修を行っていく考えである。運営推進会議への家族の出席が多く、意見交換もできている。質疑応答で意見が出され会議録には回答を含めた内容が記載されている。利用者の希望や好みを尊重し、できる事を継続させていくような支援を心がけている。地域との交流を深めるため、職員は事業所の秋祭りの案内を配布して回ったり、利用者と一緒に地域の神社の祭りに出かけたりしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のフロア会議と全体会議にて振り返りを行い理念に沿って行動できたかを確認している。	事業所の行動目標「ある愛と真心でその人らしさに寄り添います。」が入口ドアや居間の目に付くところに明文化されている。管理者はミーティングで理念を意識するように伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様と地域を散歩し近所の方々と挨拶やお話をする等の交流を図っている。	地域との交流を深めるため、職員は事業所の秋祭りの案内を配布して回った。人材確保に繋げるため、近隣の高校から実習生を受け入れ、レクリエーションを行った。	開設1年目の事業所で、地域との関係はこれからである。管理者は幼稚園との交流も考えている。地域との関係が深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ地域の人々に向けては活かせていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では必ず現状のご報告と質疑応答を定例として、その際にいただいたご意見は会議や申し送りで職員へ周知し施設運営に活かしている。	家族が参加しやすい曜日に合わせて土曜日の午後開催し、事業所の現状報告や行事予定などを伝えている。家族と利用者、地主や市職員・地域包括支援センターの参加がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地区に住む市議会議員さんや民生委員さんとも交流を持ち事業所の現状報告をしている。また施設行事の際に近隣の方へお願いし駐車場として場所をお借りして交流を持っている。	小規模多機能ホームの関係で、市へ頻繁に出向いている。必然的に事業所の話も出て、情報のやり取りを行っている。市職員は運営推進会議に出席しているが、議事録は持参している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的な身体拘束に関しては職員も理解をしているが、出入口、玄関に関しては離脱防止として施錠を行っている。	法人全体の身体拘束に関する行動指針はあるが、まだゼロ宣言はしていない。言葉遣いや自己の振り返りを毎月行い、全体会議でスピーチロックの認識について説明したり、ドロックに関するアンケートを実施した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回企業全体の虐待研修と3カ月に1回の事業所ごとの虐待研修を実施。、また毎月の会議内で不適切な言葉かけや対応がなかったか振り返りを行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に対して学ぶ機会やそれらを活用できるような支援はできていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関してはご理解や納得を得られるように十分説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	伺ったご要望を要望提案書としてあげ対応した内容等を記載している。また運営推進会議でも質疑応答にてご意見を求めている。	運営推進会議に出席する家族が多く、質疑応答で意見が出ている。面会の際にも、職員から話しかけて直接意見をもらっている。意見に対する対応を改善提案書に記入している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議の前に議題や意見の抽出を行い、必要に応じて企業の本部機関へも情報提供を行っている。	日を決めて管理者と個人面談を行い、職員はその場で意見を言っている。エリアマネージャーが事業所代表者会議のエリア会議で職員の意見を伝えている。職員の意見により、理念の言葉をドアに貼っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスにより個人の評価を数値化し適正な評価を行い、個別面談を通じて意見を抽出して労働環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に必要な研修を内部・外部問わず参加してもらえるよう促している。また時には業務として会社が指定する研修に参加してもらう機会をつくっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の別事業所との関わりはあるが同業他社との関わりはあまりありません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずご本人やご家族様、また担当ケアマネージャーや介護支援にあたっていた職員さんから話を伺いケアプランに反映しそれに基づく支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様ができる事は可能な限りやっていたり、ご家族様からお仕事をお願いする事で生きがいを見出していただけるような支援を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	極力面会には多く来ていただけるようにご案内する事と、毎月写真付きのお便りでご様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のご要望をお聞きし、ご利用者様の所有していた畑や田んぼを見に行ったり、馴染みのスーパーと一緒に買い物に出かけたりする時間を作っている。	面会時間に制限はない。馴染みの喫茶店に出かけて知り合いに会ったり、かつて住んでいた家に出かけたりしている。入居後に利用者同士が仲良くなったり、本人が家族に電話を掛けたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が会話の橋渡しをしてご利用者様同士が仲良く過ごせるように関わりを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在までに退去になったご利用者様は1名のみでそのご主人様も入居中のため関係は継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月の会議内で個別ケアを話し合い、ご本人様のご様子や言動、行動を踏まえてケアの方向性を考えている。	生活歴やケアプランを基に利用者へと接している。日々の関わりで利用者の様子で気づきがあれば、申し送りや会議で情報を共有し、意向の把握に努めている。主治医と家族の了解のもとで酒を楽しむ利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の生活歴は個々に把握をし趣味嗜好等を踏まえてケアの方向性を考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様のご様子や言動、行動、日々の変化を踏まえてケアの方向性を考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を確認し、時に主治医にも意見を求めてケアプランに反映している。	3か月、6か月、1年で見直し、変化があればその都度見直している。介護計画作成時には家族の都合に合わせて日を決めて来訪してもらい、医師や家族・職員で話し合いを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録や申し送りに記入し会議にてご様子の変化に対してのカンファレンスでケアの方向性を決め、ケアプランに反映できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様のご要望をお聞きし、例え対応が大変な事であっても可能な限り実現できるように柔軟に対応するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容やマッサージ等ご利用者様のニーズ合わせて地元を中心に活動する方に訪問していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には連携医が往診してくれますがご本人の状態や希望により外部への病院への受診も行っている。	かかりつけ医は往診専門医で月2回の往診があり、法人の巡回看護師の訪問がある。24時間365日電話対応が可能である。専門医には家族が付き添い、受診結果は家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	巡回看護師や医療連携先の看護師と連絡を取りご利用者様の状態等相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合の定期的な面会や医療ソーシャルワーカーとの連絡をとり情報共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で生前意向を確認しているが実際そのような時期が近付いた場合には再度ご家族様に意向を確認し、医師による説明も行っている。	契約時に「重度化した場合の対応指針」と「看取りに関する指針」を説明し同意を得ている。看取りは可能であるが、まだ行っていない。いざという時慌てないように勤務の中で研修や勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	あらゆる状況を想定とした対応マニュアルがあり研修や訓練を行うが、反復して繰り返すは行えていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防法に基づく訓練を定期で実施し避難誘導等の訓練も実践しているが地域との協力体制は築けていない。	年2回の防災訓練を実施し、月1回のメール配信での安否コールの訓練も行っている。備蓄は7日分で毎月業者がチェックしている。法人として事業継続計画(BOP)に取り組んでいるが、地域との協力体制はまだこれからである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応について企業として改善に努めており、会議内で毎月振り返りを行っている。	プライバシー保護に関するマニュアルがあり、職員全員が法人の接遇研修を受けている。SNS等に写真を使用する際には家族に確認を取り、名前は安易に載せないように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本意ではなくご利用者様本意である事を常に念頭に入れ選択肢を提示する等努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員配置等で、お待たせしてしまったりする事もありますが、可能な限りご利用者様のペースで過ごしていただけるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服も可能な限りご利用者様に選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限りご利用者様に手伝っていただいたり、ホットプレート等で目の前で調理をしたり屋外で食べたりと工夫をしている。	献立は宅配サービスを利用している。月に1回の食事作りの日に利用者と一緒に恵方巻や焼きそばを作ったり、おやつ作りの日にはホットケーキやバレンタインのチョコを作ったりして楽しんでいる。訪問調査当日、利用者が洗い物をしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、栄養が思うように摂取出来ない方は嗜好品等も用いて摂取していただけるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。 必要に応じて仕上げ等介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を表で確認しながら時間でトイレにご案内している。	毎朝のバイタルチェックを行い、水分と排泄についてもチェック表に記入している。月2回の往診の際にも排泄チェックを行っている。事業所内では「トイレ誘導」ではなく、「トイレへご案内」で統一している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が滞ってしまう方にはオリーブオイルやオリゴ糖を食事と一緒に提供したり腹部マッサージを行ったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく入りたい時に入浴していただけるように曜日や時間は決めず言葉かけをして入浴にお誘いしている。	週2回、日に3人を目安に入浴している。体調不良の時には清拭を行い、むくみ改善で足浴を行うこともある。自宅で夜入浴していた利用者が、事業所の風呂に慣れたら昼間入れるようになった。入浴拒否の場合は、言葉かけを工夫して誘っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の状態を見ながら午睡の時間をつくったり、起床や就寝時間を変えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容が変更になる度に申し送りノートに記載し状態変化等の注意事項を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の能力や趣味・嗜好をもとに役割をもってもらい、こちらからお願いする事で継続していただいている。また外出や買い物支援等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご要望に応じて可能な限り対応できるよう外出支援を行っている。(日々の散歩や買い物等)	日常の散歩は個人的に近場に出かけており、ゴミ出しには交代で一緒に行っている。1日に何度も外出したい人には、事業所内での外気浴で対応している。車での外食レクリエーションを行ったり、家族と外出や外泊をする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時に現金、貴重品類の持ち込みはご遠慮していただいているためご利用者様は原則現金を持ち合わせていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望があればご家族に了承いただき電話でお話される等の対応をとらせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の清掃や壁画等を掲示して清潔感、季節感を視覚的にも感じていただけるよう努めている。	大型の空気清浄機が置かれ、清掃は職員と利用者が一緒に行っている。居間には皆で制作した季節の作品を飾り、お雛様に貼られた利用者の顔写真を見て本人も家族も喜んでいる。ベランダのプランターで野菜を育てている利用者がいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブルも決まった自席を設けずにお好きな場所に座っていただくようにしている。また、ソファでテレビを見たりベランダのベンチでも寛げるような配置にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にご本人様の馴染みの物や使い慣れた家具などを持ち込んでいただくようにご案内している。	クローゼット・ベット・洗面台・エアコン・換気扇は備え付けで、使い慣れた布団を持ち込んでいる。画紙の誤飲等を考え、壁には何も貼っていない。テレビや大きい椅子が置かれ、整理ダンスの上に写真が飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身で移動できる方の居室にわかりやすくお名前を大きく掲示させてもらう等工夫している。		